

2018年10月25日市場特報

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ
代表 伊藤 武

9月のポートフォリオレビューで、世界市場は警戒心が高まりながらも、順調な相場展開に対し成り行き任せの状況にあるとコメントいたしました。そしてくくり、今こそ相場の格言「もうはまだ、まだはもう」が試される局面にあることを述べました。

そして、遅行してきた金投資に対してもガマンが必要であると指摘しました。

まさに10月には、胡坐をかいていた市場は、それまで十分警戒されてきた悪材料が一気に噴出し、荒れ模様となっています。ポートフォリオ運用で、最も思慮を必要とすることは、このような局面での投資判断です。市場の成り行きは突如として変化し、それが軽度の一過性のものか、相場の流れを大きく変えるかを見極めるのは至難です。ことに、市場心理は一挙に強気から弱気になり、その時点での判断が試されます。

年初来強気相場継続の中、リスク要因も高まり、実態経済に及ぼすことはなくても顕在化する方向に転じていることは周知の事態です。しかしながら、米国経済は減税効果も伴って、当時予想以上に好転しています。懸念されてきた企業による設備投資も改善し、米国経済は減速するにしても2019年中に後退する兆しは一切ありません。空前の企業収益を更新しています。

破天荒なトランプ大統領の言動に対しても、ある一定の評価がなされる見方も増えています。例えば、対中強硬策も、今までは寛容すぎた反省も散見されます。

11月6日に控える中間選挙で、民主党による下院過半数支配と、共和党による上院支配に関して市場はほぼ織り込み済であると考えます。

ポートフォリオ運用で、市場リスクに対する備えとして、現金比率をある程度の水準を保つことをお勧めしてきました。この時点では、敢えて一部資金を投資に回すのが良いのではないかと考えます。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足るものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告

なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。